イスラームとその基幹

﴾الإسلام وأركانه﴿

[日本語– Japanese – ياباني]

ムハンマド・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジュリー

翻訳：サイード佐藤

校閲：ファーティマ佐藤

2007 - 1428

islamhouse.com

﴿ الإسلام وأركانه ﴾

« باللغة اليابانية »

محمد بن إبراهيم التويجري

ترجمة: سعيد ساتو

مراجعة: فاطمة ساتو

2007 - 1428

islamhouse.com

６－イスラーム

人類の現世と来世における真の幸福というものは、イスラームなしには達成されません。そして人間のイスラームに対する必要性は、食べ物や飲み物、空気に対する必要性よりも重要なものなのです。全ての人間は法規定から免れえず、2 つの動向の間 - 彼を益する動向と彼に対する害を阻止する動向 - に位置しています。そしてイスラームは人を益するもの、または害するものを明白にする灯明のようなものなのです。

- **イスラームには 3 つの段階があります。**それは：

- イスラーム
- イーマーン
- イフサーン

です。そして各々の段階には幾つかの基幹があります。

- **イスラームとイーマーンとイフサーンの違い：**

イスラームとイーマーンが共に並列されて言及された場合、イスラームは表象的行為を指します。それは一般に 5 柱と呼ばれるものです。一方、イーマーンは内面的行為を指します。それは一般に 6 信と呼ばれるものです。そしてこの 2 つの用語は個別に言及される場合、お互いの意味と規定を共有します。

- イフサーンのレベルはイーマーンのそれよりも高く、イーマーンのレベルはイスラームのそれよりも高くあります。イフサーンはイーマーンよりも高いレベルであるため、それ自体では最高峰のものであるとも言えます。ゆえにイーマーンにたどり着くことなくして、イフサーンの段階に到達することはありません。またイフサーンはその段階に属する人たち（イフサーンの徒）に視点を当てて見るならば、最も限定された段階であると言えます。というのもイフサーンの徒はイーマーンの徒も兼ねますから、全てのムフスィン（イフサーンの徒）はムウミン（イーマーンの徒）であると言えます。しかしその一方、全てのムウミン（イーマーンの徒）がムフスィン（イフサーンの徒）であるとは限らないのです。

- またイーマーンはイスラームを包含するため、それ自体ではイスラームよりも大きな枠であると言えます。ゆえにイスラームという段階を経過せずして、イーマーンの段階に

到達することはありません。またイーマーンは、その段階に属する人たちに焦点を当てて見るならば、イスラームよりも限定された種類のものです。というのもイーマーンの徒はイスラームの徒を兼ねますが、その全体に相当するのではありません。ゆえに全てのムウミン（イーマーンの徒）はムスリム（イスラームの徒）ですが、全てのムスリム（イスラームの徒）がムウミン（イーマーンの徒）であるとは限らないのです。

● **イスラームの意味：**

イスラームとは*タウヒード*信仰[1]と服従行為による従順さ、そして*シルク*[2]とシルクの徒から潔白であることにおいて、アッラーに従うことを意味します。アッラーのみに従う者は、ムスリム（イスラームの徒）であり、アッラーとその他の何かに従う者は*ムシュリク*（シルクの徒）なのです。一方アッラーに従わない者は、高慢な不信仰者ということになります。

[1] 訳者注：「タウヒードとタウヒードの種類」の項参照。
[2] 訳者注：「シルクとシルクの種類」の項参照。

7ーイスラームの基幹

● **イスラームの基幹は５つです：**

イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“イスラームは５つ（の基幹）から成立している：ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラスールッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはアッラーの使徒である）とシャハーダ（証言）すること、*サラー*（礼拝）を行うこと、*ザカー*（浄財）を支払うこと、ハッジ（大巡礼）、ラマダーン月[3]の*サウム*（斎戒）をすることである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[4]）

● **“*ラー・イラーハ・イッラッラー*（アッラー以外に真に崇拝すべきものはない）”というシャハーダ（証言）の意味：**

その意味は、人が偉大かつ荘厳なアッラー以外には真に崇拝すべきものは存在せず、アッラー以外に崇拝されているものの*ウルーヒーヤ*[5]も、それに向けられたイバーダ（崇拝行為）も全て無効であることを、舌と心でもって承認することです。この文章は否定と肯定から成立しています。“ラー・イラーハ”の部分はアッラー以外に崇拝されている全てのものを否定し、その次に来る“イッラッラー”の部分はアッラーのみにイバーダ（崇拝行為）が向けられるべきこと、そしてアッラーはイバーダ（崇拝行為）においても全宇宙の所有においても同列者や参与者をお持ちにならないということを肯定しています。

● **“*ムハンマドゥッラスールッラー*（ムハンマドはアッラーの使徒である）”というシャハーダ（証言）の意味：**

この言葉は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が命令したことにおいて彼に従い、彼が語ったことを信じ、また彼が禁じたことを避け、そして彼が定めた手法によってのみアッラーを崇拝することを意味します。

---

[3] 訳者注：イスラーム暦９月。

[4] サヒーフ・アル＝ブハーリー（8）、サヒーフ・ムスリム（16）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

[5] 訳者注：いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威としての性質。